

もし地震が起きたら

地震が起きたときには、慌てずに落ち着いて身の安全を確保しましょう。災害時は、場所や状況などによって、臨機応変な対応が求められますが、まずは日頃から、その場所で行うべき基本的な行動を心得ておきましょう。

家の中にいるとき

- ①丈夫な机やテーブルなどの下に潜り、身の安全を確保しましょう。(突然の大きな揺れで身の危険を感じたときは、すぐに屋外の安全な場所に避難しましょう)
- ②ガス器具やストーブの火は、すばやく消しましょう。
- ③玄関や窓などを開けて、いつでも逃げられるように出口を確保しましょう。
- ④2階にいるときは、階段を駆け下りたりはせず、落ち着いて移動しましょう。
- ⑤逃げるときには、割れたガラスや食器などでのけがに気をつけましょう。

街にいるとき

- ①バッグなどで頭を守り、窓ガラスや看板などの落下物に注意しながら、安全な場所まで避難しましょう。
- ②ブロック塀や自動販売機など、倒れやすそうなものや垂れ下がった電線には近づかないようにしましょう。

デパートや地下街にいるとき

- ①慌てて出口に向かったりせず、係員の指示に従いましょう。
- ②避難するときは階段を利用し、エレベーターやエスカレーターを利用しないようにしましょう。

車を運転しているとき

- ①急ブレーキは避け、ハザードランプをつけてゆっくりとスピードを落としながら、道路の左側に寄せて止まりましょう。
- ②カーラジオなどで情報をよく聞き、規制に従って行動しましょう。

海岸にいるとき

- ①津波が起こる恐れがあるので、揺れが小さくてもすぐにその場から離れ、高台などに避難しましょう。
- ②地元の警察や消防などの指示に従いましょう。

地震がおさまったら

- ①ラジオなどで正しい情報を得て、落ち着いて行動しましょう。
- ②避難するときは、ガスの元栓を締め、ガスが漏れていないかを確認した後、電気のブレーカーを切りましょう。
- ③災害対応や復旧の妨げになるので、自動車は使わないようにしましょう。
- ④崩れかかった建物やブロック塀などには近づかないようにしましょう。
- ⑤近所の人々の安否を確認しましょう。
- ⑥お年寄り・体の不自由な人を介護しましょう。

今だからこそ知っておきたい

地震・津波

広報のぼりべつ2011年 9月号

未 曾有の被害をもたらした、東日本大震災。突然のすさまじい揺れが建物や道路を破壊し、誰もが自分の目を疑うほどの大きな津波が人やまちを飲み込みました。地震や津波などの災害は、突然私たちに襲いかかります。今号では予期せず起こる地震や津波に備えて、事前にできること、災害が起きたときに取るべき行動など、市民の皆さんに覚えておいていただきたいことお知らせします。

津波

問い合わせ
(総務グループ)